



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	都市社会学：昭和28年度特殊講義案 第4巻 第2号 A 冊
Author(s)	鈴木，栄太郎
Description	東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の青年層、都市の社会成層、都市内の焦点群落、都市住民住宅の法形式。
Issue Date	1953
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77407
Type	manuscript
File Information	N006_01AS28.pdf



SUPERIOR NOTEBOOK
MADE FROM FINEST PAPER

都市社会学

二十八年度
讲义案

第四卷 第三号

A 冊

都市の青年

都市の社会秩序

都市の商店と通商

都市住民生活の法形式



一、都市の音風景

二、都市の社会形成

三、都市住民の生活形式

都市の青年層

一、^{都市}人口統計は青年層突出

二、^{都市}職業人口構成、中々商工業に従事する人々

三、^{都市}犯罪者人口構成、中々青年は割合が多い

四、映画、娯楽、入場券はもとより青年

五、その他都市公共施設の利用者

六、文化消費を主とする青年

七、~~多~~配偶者数

八、住居（一般に低世帯）

九、青年の集居（若者連合、生活協同組合等）

十、^{都市}青年の進歩性、都市の革命性

十一、^{都市}青年は地方青年か、えか

十二、都市青年は青年の生活の場か

十三、都市青年は青年の生活の場か

終末村元

都市青年団に同く。

都市青年地方調査報告
を考へる

都市の青年層

ここに都市の青年層と云ふのはそれか一つ

の全体として何らかのまとまりを成し

て居ると云ふのはたゞ一つの集合的集團を

云ふより、人はその年齢構成に於ける

特色が青年層として出るのである。都市

の若い世代の活動的な活動をする年齢

層に整理して見れば、特色が青年層

層として青年層が浮き出て来るからである

近代都市は青年層と特殊な関係をもつて居る

都市の人の構成においては青年層が膨

大して若い世代の人の構成において若年

△
この人は構成に於いて都市の性格を異にするのは
青年層の部分に於いてである。都市
をこの都市的にして居る人の構成に於いて
青年層の拡大の事実がそれである。少
年の増加がこれである。

層が別れて居る。それは一般に知られて居
るものである。△
この事実が都市の社会を
形に於いて青年の占める領域の拡大する事
が分る。それは中学校以上に都市は青年
の活動の場所となつて居る。
都市に於いて生産活動人として青年
の占める領域は勿論互に大なり消費
活動人にしては青年の領域は更に大であ
る。と云ふ事は都市に於いてその人の構成に於
いて青年が時に膨大して居る事以上に、
更に於いて消費に於いて都市活動的であ
る。

この頃にして、都市の青年はさうさうの
勢力圏内の中におり集まへてゐる。
そればかりは、
労働者も、経営者も、職者も、
学生青年も、さういふ中におり集まつて
ゐるものである。世間の青年の型は概して
果して然し。我々は都市の青年について
さういふ時分、さういふ型の生活を意味しては
なからぬ。
都市の生活が如何に多く青年層の
力に及んでゐるかを示す材料の数は
澤山あるであらうが、都市の消費生活
が如何に多く青年層を刺激してゐるか

かきつた、数字は余りよくない。

映画館に於ける風景を写して書き写す。

これは認めるところである。それを計算して

表字は正しくなる。然しや、映画館に於ける

風景は、人の意識の反映によるもの

である。その点は大に注意を要する。

天竺の風景は、その点に注意を要する。

この風景は、その点に注意を要する。

これを讀む年齢層が、書き手であるから

作る上その點を考慮する必要がある。

随筆を讀んでみる。

かきつた、数字は余りよくない。

うか。高知新聞等は老人達の会集する
ところであり、パリの原題も終極的には
いふところか。そんな都市はほんの
娯楽施設の多さについて調べる必要が
ある。国書館、音楽会、はつこく然り。
恐らくそれらの成のほんの十数のものである
大都會書を序によつて利用されるべき
ところである。

都市に於ける集団の中世帯は今年般
階層であり、これと都市の全は青年
群を多しである。職場は全般階層
を占め、その労働組合は青年のもの

である。生活協会は、(主)は知るか、若く
は、ある。土地は、(主)の、(主)の、(主)の、
世帯を、(主)として、(主)の、(主)の、
永年、(主)の、(主)の、(主)の、

都市に、(主)の、(主)の、(主)の、
集、(主)の、(主)の、(主)の、
また、(主)の、(主)の、(主)の、

都市の、(主)の、(主)の、(主)の、
と、(主)の、(主)の、(主)の、
の家、(主)の、(主)の、(主)の、
ん、(主)の、(主)の、(主)の、
の、(主)の、(主)の、(主)の、

都市に青年団が在り

それ等の青年は住居以外の娯樂設備
に向ふ傾向は著しである。都市の娯
樂機關が最も多く青年によつて利用
せられる。青年が娯樂に耽つてお
く傾向にある。これは社會的な
娯樂の者は生活に於いて青年の
近頃はその娯樂の形式は多岐に
わたる。

その娯樂は多岐にわたる。青年
は娯樂的である。娯樂は青年
には重要な娯樂である。よくも
あしくも都市とその文化を相違する。

これは革命である。都市は其の意味で
革命の破壊地を以て其の中心となす
である。

10 都市の社会秩序

一 市民人と職業

一 職場の秩序

一 学術と勤労年表による職業

一 収入と生活水準と文化水準

一 階級対するの二群

一 投資区劃の一般

一 地域経済の同質性
一 都市の発展と階級斗争

二 三つの陣営

その上の階層は都市層
ヒートアップが、その下層へ

成層の多岐の発生、
社会階層の多岐
1952

リノ・エンの社会成層

日本社会の社会成層
都市

社会階層の発生を指し、社会的階層に於ける

人々の生活の質、社会的階層に於ける

へる場合、水平的な社会的階層とある

垂直的な上下的社会的階層が考えられ

社会階層の発生、個人の上昇と下降、集団の上昇と下降

社会へは社会を視る上、上に位置

である。

都市では都市に於ける社会成層一般と共に

都市に於ける社会成層の二つの階層である。都市

の都市層及び都市の社会成層の素因の外にも、
と見られ、更に社会階層の発生について考察せしめたい

第二章

都市の社会成層

都市の社会階層には職域が各階層に可

及し、その主要な職域が各階層に於ける

こと、その社会階層の発生を考察する。然し、若

し都市の社会成層が、社会階層の発生を考察する

職域、或いは社会階層に於ける社会階層の発生を考察する

職域、或いは社会階層に於ける社会階層の発生を考察する

職域、或いは社会階層に於ける社会階層の発生を考察する

職域、或いは社会階層に於ける社会階層の発生を考察する

職域、或いは社会階層に於ける社会階層の発生を考察する

職域、或いは社会階層に於ける社会階層の発生を考察する

職域、或いは社会階層に於ける社会階層の発生を考察する

内部
ゆゑに職域には成層がある。然しそ

れが互に都市における社会成層であるか

職域相互の間に階層の上下が認め

らるゝ。その関係は何であるか。

都市に在る各種の職場には何れも

成文の又は不成文の出来て職階の制

度がある。職階は元々いへば工と勤務

と年俸の基礎の上に出るべきものであるが、

更に上層部の人との縁故の關係による場

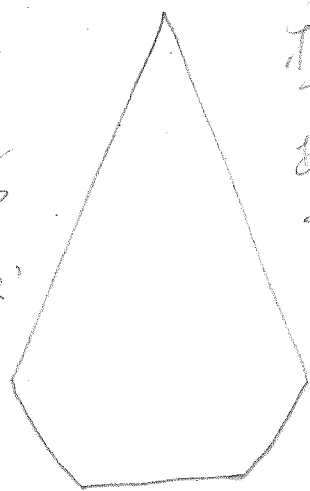
合もある。職階の上昇と共に収入が得

られ下層の人に対し統制指導支配の責

任が重なる。の範圍が狭い力がかかる。

収入の増減と共に生活水準が動く。其の多くは富が集中し権力を加へる。

多くの職位における職員の職階を人のピラミッドの形に図すると上昇する者に人より多い。然しその下層の人数は最も多量である。即ち逆の形である。



上昇する者に少数となり、割合は職域により一定しては居ない。

職域により、職階の割合は右の如く大抵

にミミミミに的である、一つの職域を労働
者やの実見の中に入つた場合は此ミミミミ
といふ上下の二つの陣営に完全に分離さ
れる。その分離の線が同じであ
る。一線の上は資本家側となり一線の下
は労働者側となる。然るはこの一線は
何を基準として出来て居るか。今我々は
製造業社の場合について考へて見よう。
(ここに我々の製造業の例挿入)
この一線は収入の階層により分れて居
るのではなく職務の別により引かれて居る。
職階においては収入の階層と職務又
別

権力の階層が完全な一致と見做すのでなく
可分也。即ち収入は高くとし職務と
とは別支配的である場合がある。
ピラミッド図形の下より上へ向う場合あ
る。兵に來て突如として対立する二階層の
上部にかぎり^{同中}下部と対立する図例に
あつた。二の陣営は恐らく探取する例
と探取する例との対立である。
と云へばはあつた、又実対立といふ
はしかく単純ではない。それによつて
例は探取する例である、探取する。
人自身は対立の血しぶきの外に

式、程度等で、社会的位階の上下を新
断する事が必要である。（口述） 此の事のみ
が、調査の一端として述べられ、本
市大和市において、階層上下の調査
調査は、職階の上下に對して一つの調査
資料となる。ものである。（然し、本調査は、調査
である。調査である。）
都市においては、36階層は、各階層と
して各職域において、職階に附屬する
ものである。職域相互の關係は、大
致において、評價も考慮する可きであ
る。その勤続年数と収入を考慮
する。すなわち、大市の傾向を知り、

か、出来。下あう。即ち高い家。を
北は昔年、勅達した。人が高い
~~地味~~ 北の階層にある。よ。一般の
低向は認め。さ。ち。相。ない。然し人^{のまゝ}に
甲乙ある。運不運がある。又都市の
少世郷道には色々の意造りがある。の
下右の原野かくつれ。片は場合も甚
く。さうである。
昔村に同じにはいた。は。何れの職域
にも是のつた。二つの上下二階層所
の村を板敷の園は。か。思。の。さ。れ。さ。
。低向は。争。と。表。には。け。しく。な。り。つ。

あゝと云ひ終つての職域におけりて二
階層の対立は階層的に横に結
束したやう都市におけりて職域
域が一團となつて二つの階層に分
れ対立して居るに足らぬことである。
その横の結束が強いものに士族や都
市の人々が二つの階層に分れて対立
して居る。おにさへ足えようである。
この対立は果して都市に本質的な
ものであるとは思ひなかつたが、都市の
近代化と共に急激に此傾向はますます強
くおつてある。

5 都市内の商店群集

都市の中へは中心街があり、全市に亘って
二次的の商業街が散在し、その同様の
三次商業街が散在し、その又
同様の四次商業街が散在し、かくの
如くして、各町の二次、三次、四次の商業街
又は孤立商店が全市内の何れか
位置を占めてゐる。その三丁目以内にある
所に限らず、大甲町の商店も所在地を全
市に亘る、と云ふ様な形式か
考へ、小なものはなく、大なるものは
の形式は、是れより幾分か複雑してゐる。

と見れば、むしろこんな根本的な形式が
我々の混乱せしむる諸条件の存す。我々の
の姿の底には存して居るものがある。
今市井の隅から隅まで同大の住居のみによ
る。国家巨費に配置するものがある。
我々の生活のみに依るものがある。市井
の各所に大きな町工場もある。大邸宅も
ある。学校も、官舎も、倉庫も、暖房も
に配置するものがある。工場、住居、大邸宅
も、我々の生活水準も異なっている。先づこの
べた様子を、原則からいって、社会には
是れと混亂せざるを要する。けれども市井

知し太の如く、喉候み身へいふはあ

てあう。

カーヒスモシタしとこの

ニわは曲りかゝ都市を去つた時今と全

く同好う。 何んのかい 家お器も日常

けなゆきの方に 孤立の意をあらわす 折れ、一ヶ月に

て後に出掛け、田舎へ半歳に一度出掛

け。中部市、特許の日休つて出掛け。

中部市、何年にも一度出掛け。中部市

との関係と関係である。何んの家か、

云つはたの孤立の意をあらわす。中部市に折

り、関係は時々の関係が長くなつて行く順

序をなし、序より若くしてこの区画が

考を以て違ふたゞ行く順序でいふ。
都市に於ける市民は甘くビスセンと云ふ
同様にしつ行く順序と云ふと全く
同一である。

都市に於ける最終に於けるセーと云ふ
ものは恐らくハリスが笑ふであらう。
何と云ふはハリス、星が一歩もあ
りの居る人々の最上層のついでである。
あうである。全市に亘りクモの影の如
く散布して、そのは氏二つの高き下な
るに似て、ハリスに如く強大
な力をもたぬものは有難い。可成り有

の日事生活の實際について思ふも一日も欠
 いあらず、よものはふ食位である。住
 居の支那や修繕は歳毎に月毎に必要と
 なる譯ではない。そして口は必要ではないと
 も一向も思ふ事は出来ぬ、口は口としての調
 整や修繕が毎日必要とある。口の口は
 口の口は口程いふ必要として少くとも毎日
 に必要といふ。これに對して食は毎日
 必要である。食の中にも食は財力によ
 るは相共に野暮かすくである。副食
 物としての野菜や果は全く毎に必要
 である。その必要である。副食物として

[illegible]

予は多分此は日本帝國の歴史
 の一頁に就きしるべき事である。今では中
 ししてうつておらぬ。けれどもハるるに
 辰をイサとせしむれば近き將來にも
 まづうはなつ。この封建時代の^{から}の爲めを
 こころ二つの職をけりて近代化の
 の中へいれしむるなり。

A 普通世帯

1家族=世帯
2家族<世帯 (高齢者)
3家族>世帯 (低年齢人口)

B 二世帯

下宿屋 貸付金庫
実家実家 (家族職域)
個人宅、家族関係

配宅

来入下宿 家族別宅、縁故者
一人世帯
住込、下宿、下男
職域、言葉と同居
代貸金庫

C 集合世帯

配宅 社会 老人
アパート
職域
代貸金庫
職域

経済

- 1 居住に利した職域の支配の増大
- 2 居住型商業の増加
- 3 縁故関係の減少
- 4 生活の合同化

8 都市住民の居住の法形式

1 居住の形式

下宿屋 居住の形式
アパート 居住の形式
老人 居住の形式
代貸金庫 居住の形式

2 土地の形式

土地の形式

3 大規模な住宅形式

実家実家 (家族職域)
クワッド (家族職域)
老人 居住の形式

社会 老人

4 住宅の形式

下宿屋 居住の形式
老人 居住の形式

縁故居住

素人下宿、同居人（学生）
（有子）
便道、兄弟
下宿、下男

大要、子息係、而居、
小、子息係、而居、
自、子息係、
学生

有配偶者
有配偶者、
子息係、
主、子息係、

有配偶者
有配偶者、
子息係、
主、子息係、

都市青年が集合生活が多くなつて行く
傾向。

職、場、と、居住の分離の傾向。

同居、同財より異居、異財、
同居、同財より異居、異財、

同居同時

純字族

同居異時

同居人子字族

同居同時

職階か越るゝものに子系他に有
場合

異居異時

独立字族

1. 高床の中に居候する場合 同一に小座

2. 同一屋敷内に高床と低座と居候場合 別室に
別室に

3. 高床と低座と居候も字族に属する場合

4. 字族の全員の字當に候する場合

5. 主人と字族の一人が字當に候する場合

6. 一人の字當に候する場合

7. 他人に候るやせゝもの字當の字當に候場合

1. 主人と使用人とは同居する命令

2. 主人と使用人とは同居する命令を主人の支配する

家内を居住する命令

3. 主人と使用人とは同居し使用人は自居
に居所を求め居る命令

自由平等化の文脈の方向に及し、

主権者たる使用人の居住する物業に

は、主権者たる使用人の居住する物業に
の権利を認め、
その権利を認め、

主権者たる使用人に及ぶべき命令も

他人の自由を無視したものである。

主権者たる使用人の権利のゆえに生れし。

主権者たる。

昭和二十九年夏、京都府立第一高等学校に在る。

洞石島（佐賀）の中へ

普多し世帯

の如くつゝ、超定あり

大谷田田（佐賀）文天照

大谷田田（佐賀）文天照
洞石島（佐賀）の中へ

洞石島（佐賀）の中へ

洞石島（佐賀）の中へ

洞石島（佐賀）の中へ

洞石島（佐賀）の中へ

洞石島（佐賀）の中へ

洞石島（佐賀）の中へ

半世帯

1. 寡婦舎

2. 玄人下宿

3. 妻人下宿 (仮込経第)

下世下男 (一、二世帯)

(必) 扱いは経第と下世は著色

世帯の出入小 (一、二) (合費を)

子拂ふが不ふかりニ有はつて居るぬ

大谷氏より調査の結果によれば

北條全世帯 68,985 の内普通世帯

13,612 半世帯 5,862 下宿 / 新造りか半世帯

調査地は北條系大谷世帯

北條より南3條まで西8丁目

西19丁目まで昭和二十一年

人は一、五五二世帯数二、五五五の

ところ

調査結果より

1. 寡婦舎 調査全戸数は

12,612 外に1,112戸 477人

2. 玄人下宿 六12戸 100人

3. 妻人下宿 六12戸 100人

右の内 3 妻人の下宿は次の

他人の生活世界を構成してゆくもの
 とは一人の生活世界を占し、先けをきく
 二つの者と、他世界に置身する
 の人となるものとする

		~~世帯~~		~~世帯~~		~~世帯~~		~~世帯~~		計 人数
一人世帯		他世帯 一人同居		他世帯 二人同居		他世帯 三人以上同居				
子 例	m	f	m	f	m	f	m	f	合計	
	22	24	47	44	3	5	3	3		155
人数 (世帯数)	22	24	47	44	6	10	12	10	3	180人

同居人は彼も同居をせよとせ
帯の中に入るといふに
女中や宋子、唐人も食ふ

[illegible]

	總人數	年齡		總人口百分比		性別	
		18-30	15-30	18-30	15-30	男	女
1. 總人口	477	428	442	69.7%	92.7	119	358
2. 主人口	100	82	90	82.0	90.0	97	3
3. 主人口 總人口 一人世界	184	91	91	49.0	49.0	91	93
計	761	601	623	78.8	81.8	307	454
同居人	585	367	479	62.8	81.1	361	224